

午後Ⅱ試験

システム監査人には、高度化し多様化する情報技術を理解した上で、情報システムを監査する見識や能力が求められている。本年度もこうした視点から、幅広いテーマの問題を出題した。システム監査人には、発見した事実や監査意見を適切に記述するための表現力が求められるが、解答字数の下限ぎりぎりですら十分に内容を表現できない論述や、下限に満たない論述が目立った。今後、受験者の表現力の向上を期待したい。

問 1（システム開発や運用業務を行う海外拠点に対する情報セキュリティ監査について）は、選択率が最も低かった。本問を選択した受験者の多くは、設問全体を通して、具体的な内容の論述が多く見られたので、実際に海外拠点を活用したシステム開発や運用業務を経験していると考えられる。一方で、一般的かつ抽象的な内容に終始している論述も多く見られた。例えば、リスクとコントロールに関する設問イでは、問題文中で例示された文化や商習慣などを超えた具体的な内容が見受けられないものも目立った。設問ウは、監査を効率よく、効果的に実施するために留意すべき事項を問う設問だが、監査手続を記述している論述が散見された。

問 2（ベンダマネジメントの監査について）では、組織横断的なベンダマネジメントについての問であるにもかかわらず、個別の外部委託の管理についての論述が多かった。また、設問イでは、組織体制や管理の不備などのベンダマネジメントの問題点について問うているが、“管理するベンダが多い”、“コストが高くなっていく”などの事象を挙げているだけの論述が目立った。設問ウの監査手続については、“インタビューを行う”、“文書を閲覧する”などの簡易な論述が多く、より証拠能力を高めるための具体的な監査手続を記述している論述は非常に少なかった。

問 3（システム開発におけるプロジェクト管理の監査について）は、最も選択率が高かった。その理由は、プロジェクト管理という基本的なテーマであったからだと考えられる。情報システムのリスク、運用後のリスクについての論述や、プロジェクトマネージャ又はプロジェクトリーダーの視点からの論述が見受けられた。設問イでは、QCD の切り口での論述が多く、プロジェクトの特徴を踏まえた具体的な論述は少なかった。設問ウでは、監査のポイントだけを述べ、監査証拠を記述していない論述が目立った。また、設問で求めている監査結果や改善提案などの論述も散見された。